

Economic Indicators

発表日: 2019年12月18日(水)

貿易統計(2019年11月)

～米国向け輸出は依然として弱いものの、アジア向けは持ち直しの動きがみられる～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部
副主任エコノミスト 小池 理人 (TEL: 03-5221-4573)

		貿易収支(億円)				輸出数量			輸入数量				
		輸出金額		輸入金額		前年比	アメリカ	EU	アジア	前年比	アメリカ	EU	アジア
		原数値	季調値	前年比	前年比								
18年	10月	▲4,563	▲4,046	8.2	20.0	3.8	10.2	6.9	1.3	10.3	19.9	2.6	12.4
	11月	▲7,391	▲4,287	0.1	12.5	▲1.9	1.8	6.2	▲4.5	4.2	▲2.7	9.2	3.4
	12月	▲557	▲1,957	▲3.9	1.9	▲5.8	3.9	5.7	▲10.4	▲2.2	11.5	▲4.0	▲2.4
19年	1月	▲14,177	▲3,165	▲8.4	▲0.8	▲9.1	10.2	▲1.5	▲14.3	0.5	11.4	▲3.6	3.7
	2月	3,316	330	▲1.2	▲6.5	▲0.7	4.1	4.6	▲1.2	▲6.5	5.7	▲1.2	▲10.8
	3月	5,227	▲1,931	▲2.4	1.2	▲5.7	0.3	4.7	▲8.0	0.4	▲3.1	▲10.7	5.5
	4月	535	▲1,612	▲2.4	6.5	▲4.3	5.1	▲2.9	▲3.4	4.1	1.4	5.6	3.4
	5月	▲9,702	▲5,151	▲7.8	▲1.4	▲9.0	▲1.0	▲8.0	▲11.7	▲1.2	5.5	10.8	▲2.9
	6月	5,875	62	▲6.6	▲5.2	▲5.6	2.9	▲4.5	▲5.3	▲3.2	2.8	▲6.9	▲3.8
	7月	▲2,523	▲1,347	▲1.5	▲1.1	1.7	10.0	4.6	▲4.6	6.6	9.5	1.4	8.4
	8月	▲1,457	▲1,012	▲8.2	▲11.9	▲6.0	▲3.5	▲2.2	▲8.8	▲6.0	▲3.4	▲4.8	▲4.2
	9月	▲1,283	▲514	▲5.2	▲1.5	▲2.4	▲3.9	0.2	▲5.9	6.7	▲0.9	8.7	8.1
	10月	157	▲482	▲9.2	▲14.8	▲4.5	▲6.6	▲7.5	▲7.0	▲6.1	▲7.5	▲11.2	▲7.0
	11月	▲821	▲608	▲7.9	▲15.7	▲5.0	▲9.7	▲7.8	▲2.7	▲8.1	▲1.4	▲10.3	▲8.5

(出所)財務省「貿易統計」

○貿易収支(季節調整値)は赤字幅を拡大

11月の貿易統計が財務省より発表され、貿易収支は▲821億円と赤字(コンセンサス: ▲3,854億円、レンジ: ▲5,686～+715億円)になり、コンセンサスを上回る結果となった。

輸出金額については前年比▲7.9%(コンセンサス: ▲8.8%、レンジ: ▲10.7%～▲4.6%)となり、輸入金額については同▲15.7%と減少(コンセンサス: ▲12.3%、レンジ: ▲14.7%～▲8.5%)した。輸出の弱い動きを原油価格下落に伴う輸入減少が補う形で、大幅な貿易赤字の悪化は避けられた。輸出の動きは米国向けを中心に依然として弱いものの、アジア向けで持ち直しの動きがみられるなど、回復の兆しもみられている。季節調整値では、輸出金額が前月比▲0.3%、輸入金額が同▲0.1%となり、貿易収支は▲608億円と前月から赤字幅が拡大した。

○実質輸出は前月比▲1.3%

為替などの価格変動の影響を除いた実質輸出は、前月比▲1.3%(10月: 同▲1.4%、実質化・季節調整は第一生命経済研究所試算)とマイナスでの推移が続く結果となった。

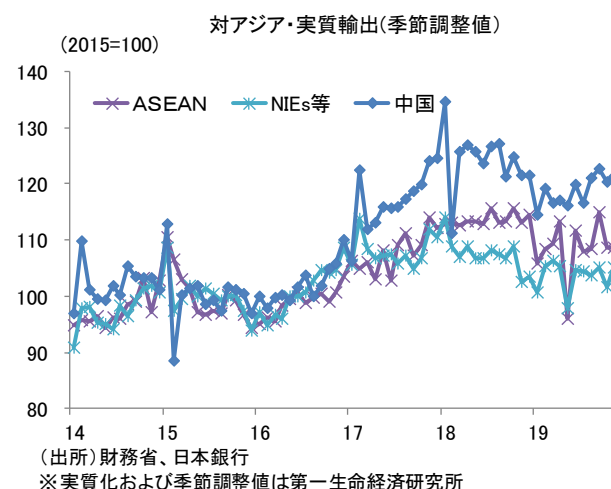
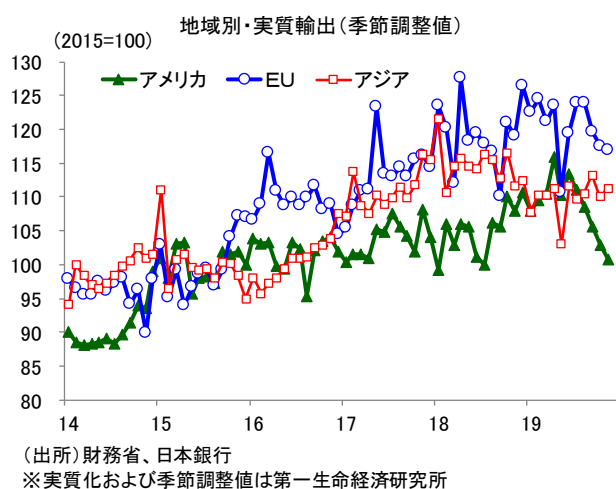
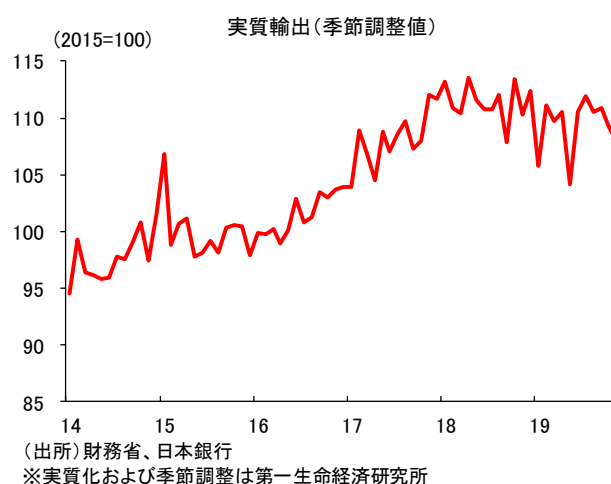
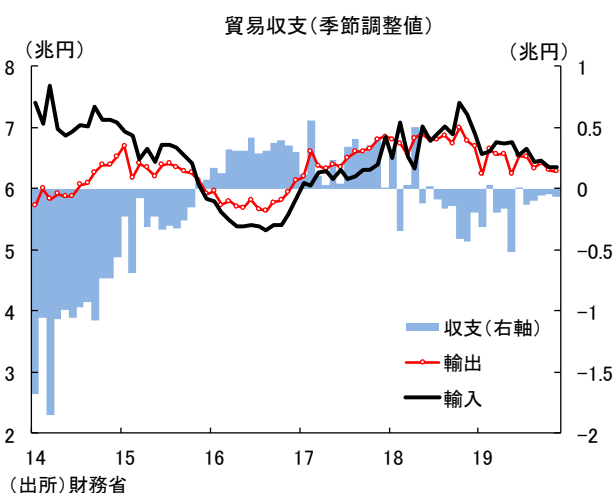
実質輸出を国別に見ると、アジア向けが前月比+1.2%と増加した。輸送用機器や化学製品、一般機械等、幅広い品目で持ち直しの動きがみられた。

一方で、欧米向けは弱い動きが続いている。欧州向けについては、同▲0.5%となっており、9月: ▲3.4%→10月: ▲1.9%→11月: ▲0.5%と、一般機械を中心に弱い動きが続いている。気がかりなのは、米国向けが同▲2.2%と5か月連続での減少となっていることだ。中でも一般機械は同▲7.6%と大きく落ち込んでいる。製造業を中心に米国の企業部門の景況感が悪化する中で、一般機械をはじめとした資本財の需要が落ち込んでいることが原因とみられる。

このように弱い動きが続く輸出だが、今後は緩やかな持ち直しを予想する。グローバル製造業 PMI や OECD 景気先行指数等の改善により世界経済には底打ち感がみられており、不透明感の高まりから設備投資を手控えていた海外企業も徐々に設備投資を増加させていくことが見込まれる。また、11月の米国での日本車販売が前年同月比+3.5%と2か月連続の増加となるなど、輸送用機器においても持ち直しの兆しがうかがえる。米中通商交渉の第一段階の合意に伴い、世界経済を取り巻く不透明感が一部後退することで、企業の景況感にも改善の動きがみられることが予想され、今後は海外経済の回復と足並みを揃える形で徐々に持ち直していくことが見込まれる。

○米中の第一段階の合意はポジティブな材料だが、今後も両国間の対立はリスク要因

今回の合意に伴い、12月15日に予定されていた米国による中国製品約1,600億ドルに対する15%の関税引き上げは見送られ、9月に実施された中国製品約1,200億ドルに対する15%の関税を7.5%に引き下げることが発表された。昨年7月に米国による中国への関税措置が発動されて以降、米国が中国に対する関税措置の緩和は初めてであり、今回の合意を受けて世界経済への下押し圧力が一部緩和されることにより、輸出への影響はプラスに寄与することが見込まれる。もっとも、今回の合意内容についての説明に米中間で一部食い違いがみられること、産業補助金等の合意が困難である問題が先送りにされていること、トランプ大統領が今後も関税を交渉のカードに利用する考えを示していることから、依然として両国の対立は続いており関税が再度引き上げられるリスクも残存している。今回の合意に伴い不透明感の一部払拭されたものの、今後も米中間での交渉の動向を注視する必要がある。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。